

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (59)



～ お母さんとは「太陽」のことだった ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦

「おかあさん。なあに。おかあさんっていい におい♪」これは、童謡「お母さん」のはじめの歌詞です。皆さんは、お母さんのイメージをどのように感じていますか。お料理する時のたまごやきのにおいや洗濯する時のしゃぼん玉のにおいでしょうか。

では、「元始、女性は太陽であった。」この言葉を聞いたことはありますか。これは女性解放運動家の平塚雷鳥が、1911年女性による女性のための文芸誌「青鞥（せいとう）」を創刊するにあたって、巻頭に寄せた発刊の辞になります。先日、境野勝悟著「日本のこころの教育」を読んだ折り、「元始（昔、物事のはじめ）は、女性は太陽であった。」という真の意味が理解できると同時に、とても内容に共感いたしましたのでお伝えします。

お母さんのことを、歌舞伎では「カカさま」と言っているのを聞いたことがあると思いますが、昔は、お母さんを「カカ」や「カカァ」「カカさま」と呼んでいたそうです。ひらがなの「か」の音は「カッカッ」からきており、太陽が燃えている様子を表す擬態語でした。つまり「か」とは「日＝太陽」のことになります。また、ひらがなの「み」の音は、私たちの身体という意味になります。それが「か」とくっついて、「日身（かみ）さん」と呼ばれるようになりました。今でも、妻を紹介するときに「うちのカミさんです。」と言うことがありますが、「私の家の太陽みたいな存在の女性です。」という意味になります。かっこいいですね。

お母さんは、いつも明るくて温かい、まるで太陽のよう。お母さんは、私たちを産み育ててくれる、まるで命の源である太陽のよう。このようにお母さんは、まさに太陽そのものということから、昔は「お日身（カミ）さん」と言ったのです。そして今現在、「お母さん」として現代に残っているわけです。

いかがですか皆さん、「お母さん」に、こんな意味や由来があるってことを知るだけで、次から「お母さん」って呼ぶときに、言葉に込める気持ちが変わってくるのではないのでしょうか。

では、同じように父のことをなぜ「お父さん」って呼ぶのでしょうか。昔は、父のことを「トトさま」と言いました。確かにこれも歌舞伎などで聞いたことがありますね。「トトさま」の語源は、「尊い方」になり、夫は、妻や子どものために一生懸命外へ出て働いて、毎日毎日の糧を運んでくれる、子どもや家族を自然界の困難や危害を与える賊から守ってくれるという「尊い方」の「尊（とうと）」からきているそうです。

「お母さん」「お父さん」の語源については、諸説あると思いますが、境野さんの話はとても心に落ちました。日本は、昔から私たちの生命にとって大切な太陽や大地、自然を限りなく尊び、崇拝してきました。そして生命の源である太陽から「お母さん」という言葉が生まれたのです。私はこの言葉の意味を知ること、改めて両親のこと、私たち家族のつながりについて考えさせられました。そして、私自身、お母さんに太陽のように明るく温かく見守られて育ったこと、お父さんに困難や危険から守ってもらったことなど、感謝の気持ちが心の底から溢れてきました。そして、私たちもこの呼び名にふさわしい父親・母親でありたいと思いました。

普段何気なく使っている「お母さん」「お父さん」という呼び方ですが、私たちは千年以上の前から自

分の母のことを「太陽さん」と呼んでいたところに深く感動しました。ママ、パパの呼び方にもよさはあると思いますが、子どもたちに「お母さん」「お父さん」の言葉の意味については、日本語の持つ奥深さと合わせて伝えていただければ嬉しく思います。